

# ちんじゅ もり “鎮守の杜”再建構想

全ての人々が、にこやかに安心して生活する地域を求めて

2012.12

多世代交流型コミュニティ実行委員会



## ”鎮守の杜”とは

小高い山の頂、参道を登ったその先には、氏神を祀った神社が顔をのぞかせる。その山並には、大人も抱えきれぬほどに成長した幾本もの楠木(くすのき)が、空に向かってその幹を伸ばしている。

子供が生まれると人々はそのにお参りに行き、村の祭りもそこで盛大に行われた。子供たちはそこを遊び場に、時に災害が訪れると、それは人々を温かく包み守る場所となった。

かつての日本には、  
そんな”**鎮守の杜**”が、どの村の中心にもありました。



## 失われる”鎮守の杜”

そんな”**鎮守の杜**”は、戦後の経済発展に伴い、生活が都市化・核家族化するにつれ、次第に失われていきました。

そして、それと時を同じくして、私たちの社会からも大切な営みが失われつつあります。

それは、  
地域を中心に強く結ばれていた**人々の”絆”**です。

問題はどこにあるのか、現代社会を見つめなおしてみます。

# 現状認識



## ■ 少子化

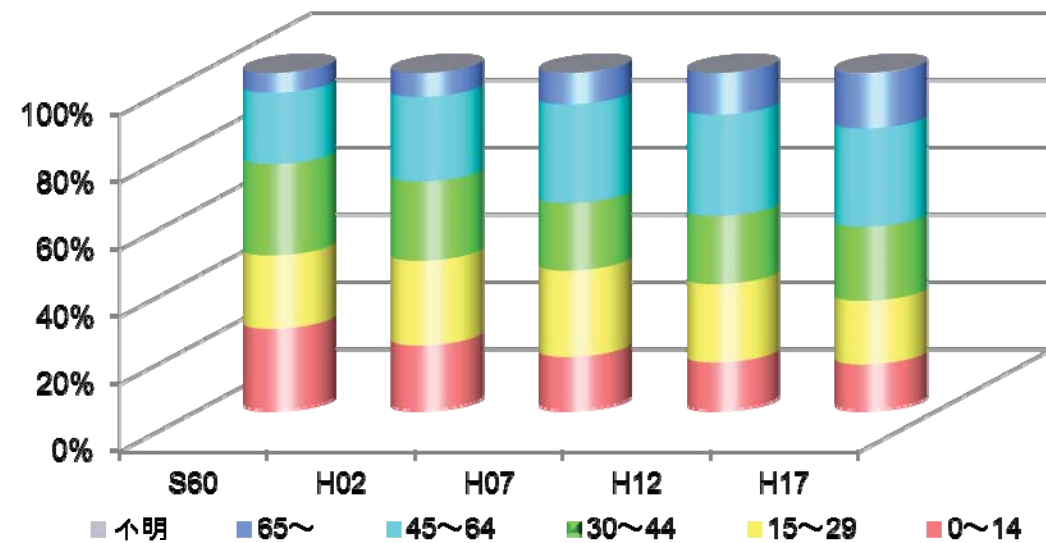
社会情勢の不安、社会の成熟に伴う晩婚化、子供を育てるために必要な社会制度が十分に整備されていないことなどが要因となり、現代の日本は少子化に歯止めがきかない状況にあります。

出生率は1974年以降2.08を下回り、2005年には、日本の総人口は戦後はじめて自然減少するに至りました。

## ■ 高齢化

経済成長に伴い医療や福祉制度が整備された結果、日本の高齢化は加速度的に進みました。

現代では平均寿命、高齢者数、高齢化のスピードという3点において、日本は世界一の高齢化社会となっています。



柏市の年齢階層別人口推移(出展:柏市ホームページ)

少子化および高齢化は今後も進むことが予想され、日本はこの「少子高齢化」を踏まえた社会へと転換することを余儀なくされています。

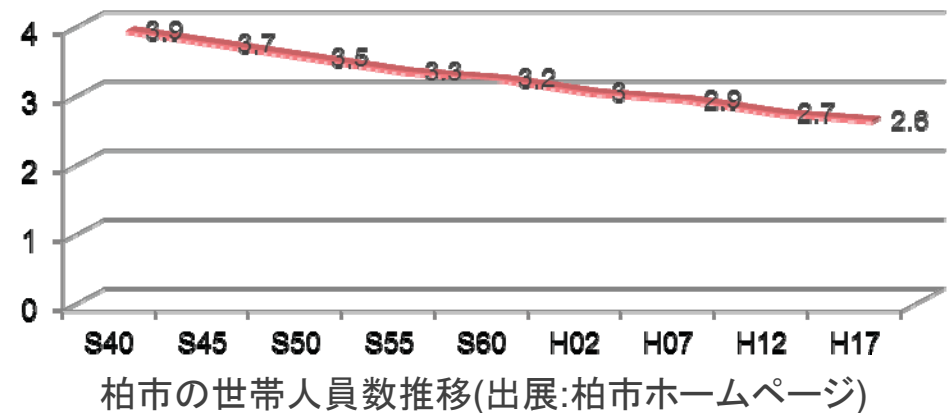
## ■ 核家族化とは

核家族化とは「夫婦とその未婚の子女」「夫婦のみ」「父親または母親とその未婚の子女」のいずれからなる家族のことです。日本では核家族世帯が60%近くを占めます。

これは産業構造の変化により人口が都市一極集中化したこと、転勤などの物理的事項により、子供が祖父祖母の世代と同居することが困難になっていることなどが原因となっています。

## ■ 核家族化のもたらすもの

核家族化は、多人数で同居する大家族と比べ「親子三世代による家事・育児の分担」が難しく、子育ての観点からは「親世代が子供と接する時間が減少する」ことを示します。また、祖父祖母世代との交流が少なくなることにより、子供たちの育成に重要な「多世代による見守りと教育」が十分にもたらされないことにつながります。



核家族化により、子供の育成に必要な「大人による見守りと教育」の機能が失われつつあります。これは、将来的な日本の衰退に繋がるのではないのでしょうか。

私たちにできることはないのでしょうか？

**ピンチをチャンスに**

## ■ もう一度「少子高齢化」「核家族化」について考えてみましょう

「少子高齢化」「核家族化」のもたらすものは、暗い将来を示すものに思えます。しかし、二つの傾向を一つのものとして見ると、その見え方は大きく様変わりします。

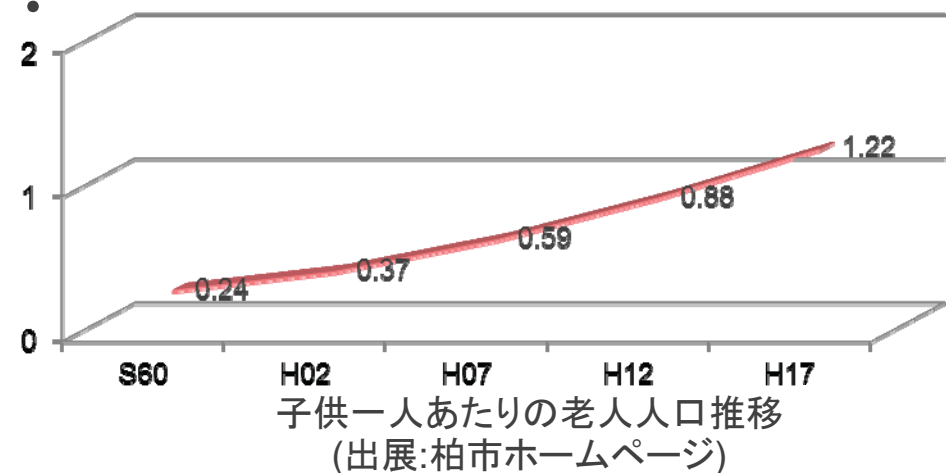
ここで一つ大胆な仮説を立ててみましょう。

## ■ もし、地域が一つの家族になったら？

先ほどの統計を「子供一人あたりの老人人口」という観点から考えるとどうなるでしょう？

「**子供を見守る大人の人数**」は増えているのです。

地域力を最大限に発揮し、**地域が一つの家族**となった時、日本の社会情勢を明るく切り拓く「未来への希望」が生まれてくるのではないのでしょうか？



今こそ「変革のチャンス」です。地域を一つの「大家族」に再構築し、将来を担う子供たちを地域で育てる未来を、我々の手で作り上げましょう。

具体的な対策を考えるため、大家族が持っていた機能を整理してみましょう。

# 大家族の機能



“家”というものは、ただそこにあるだけで、これだけの機能を持っています。

### ■ 同じところに帰属している

家族である。同じ家に住んでいる。「私たちは同じところで生きている仲間だ」という気持ちこそが、大家族の結束を生む原動力なのです。

### ■ 常にそこにある

家はいつもそこにあります。だからこそ、人は家に帰れるのです。

### ■ 相手が誰だかわかる

家族の名前がわかるのは当たり前です。でも、それが地域活動になると、名前がわからないまま付き合っていないませんか？名前を知ることがコミュニケーションの第一歩です。「ねえ、そこの坊や」と呼ぶより、「ねえ、〇〇ちゃん」と呼ぶ方が仲良くなれる気がします。

### ■ 密接に関係している

家族は持ちつ持たれつ。助け、助けられることにより、家族の絆は深まっていくのです。

### ■ 安心・安全に暮らせる

玄関があり、鍵をかけられる。戸締りができる。自分が留守の間はおじいちゃん、おばあちゃんが子供の面倒をみってくれる。

そういう安心があるからこそ、お父さんお母さんは仕事にでかけられるのです。

### ■ いつまでもそこにある

自立して別の所帯を構えても、実家はいつまでもそこにあります。困った時、疲れた時、帰る家があるからこそ、人は安心して家を巣立って行けるのです。

お茶を飲みながら。たわいもない雑談の中で、これだけの情報交換をしています。

### ■ 得意なことがわかる

長い間生活をともにしていれば、その人の得手不得手はわかるものです。

相手が得意なことがわかっていれば、困った時に助けてもらおうとするでしょう。

逆に不得意なことがわかっていれば、助けてあげようと思うでしょう。

### ■ 興味がわかる

話している相手が、今何に興味を持っているのか、何が趣味なのかがわかります。

ともに釣りが趣味だということがわかれば、「じゃあ、今度一緒に」となります。

### ■ 人のつながりがわかる

ひよんなことから、思わぬ“共通の知人”を発見したりします。

そんなことを発見した時、話し相手との関係も、“共通の知人”との関係も、ぐっと近づく気がするものです。

### ■ 協力できる

「ちょっと手伝ってよ」

相手がくつろいでいるからこそ頼めます。

「なんかいいアイデアないかな？」

人が集まっているからこそ質問できます。

ご隠居さん。ご意見番。この”キーマン”がいるからこそ、家族はうまくいくのです。

### ■ 家族全体を把握している

〇〇は、これが得意。

〇〇は今、これで困っている。

〇〇と□□は仲が良い。

長老は、家族が今どんな状態で、どんな問題を抱えているか。そして、何ができるか。いつも把握しています。

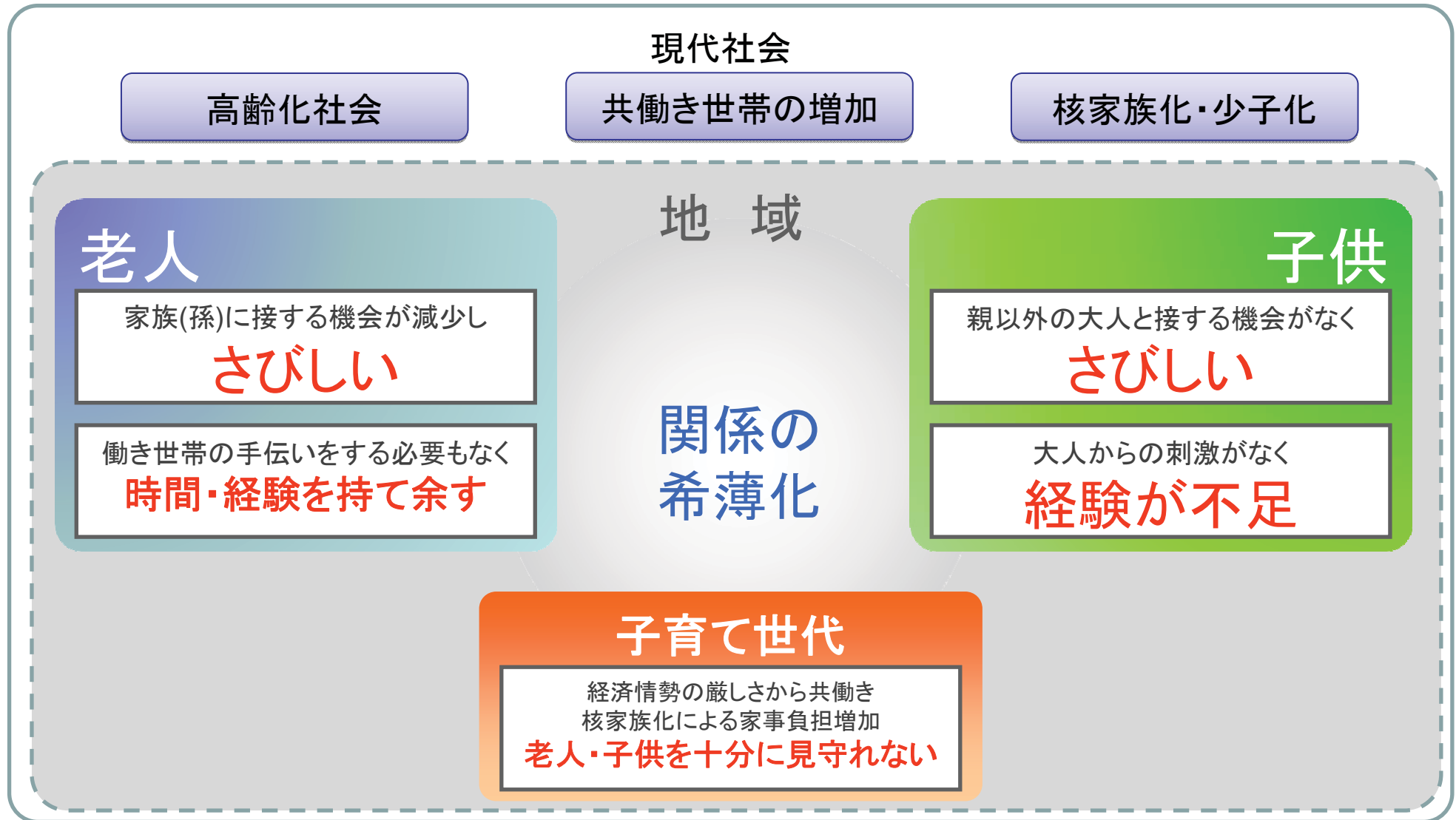
### ■ 人と人をつなぐ

長老はたくさんの人を知っています。困った時、誰かの助けを借りたい時、長老は適切な人を紹介してくれます。

### ■ 頑張りを認める

誰の目にも明らかながんばり。目立たないけど大切ながんばり。どちらも大切ながんばりです。長老は、どっちのがんばりも認めてくれます。

それは、目立たないがんばりをしている人にとって、がんばり続けるための大切な原動力です。



現代社会

高齢化社会

共働き世帯の増加

核家族化・少子化

老人

地域の子供たちと接し  
**さびしくない**

子供達へ自分の知識・経験を与え  
**生き甲斐ある人生を得る**

地域

「さびしい」をつなぐ

経験  
見守り

**循環**

生き甲斐

子供

地域の人々と接することにより  
**さびしくない**

大人からの刺激が増え  
**経験を得られる**

子育て世代

社会をよりよくするために専念するが、  
参加しやすい体制ができることにより、  
**地域活動参加の門戸が広がる**

老人と子供をつなぎ、  
双方にメリットを与えながら  
地域が循環する

平成23年度連携・協働による地域解決モデル事業  
こども循環社会「地縁のたまご」  
モデル事業実績について

---



私達の地域が抱える課題と、解決のための戦略について

# マイナスとマイナスをかけてプラスに

高柳の抱えていた「2つの課題」

地域の**子育て力**が低下している

**高齢者の生き甲斐**が低下している

私たちの考えた課題解決のための「戦略」

地域で**子育て**をすること

が、

**高齢者の生き甲斐**になる

すなわち……

地域の子供を

自分の孫の様に育てる

地域づくり

地縁の

たまご  
他孫

事業

地域ぐるみで子育てを  
するための「**組織づくり**」

実行委員会の創設、  
長老育成講座・まちづく  
りセミナーの開催

事業を推進する  
ための「**収益構造**」

カフェでの事業収益  
ホームページ広告募集  
農作物の移動販売  
等々

コミュニティカフェ  
の設立

会員管理のIT化、  
ホームページ構築に  
よる広告・広報費削減

地域住民がいつでも  
集える「**居場所づくり**」

効率的な事業運営  
のための「**技術革新**」

平成23年度の実績紹介

# 創設、試行、発展

## 円卓会議

### 組織化

- ・地域が抱える問題の掘り起し
- ・問題解決の方法を審議

成果

- ・事業コンセプトを地域で共有
- ・運営のための仕組みを構築

## 長老育成

### 運営力強化

地域づくりコーディネータ養成のための講座を開催(6回/182名)

成果

- ・地域の中に長老を作る仕組み
- ・長老=地域の「管理職」



## まちづくりセミナー

### 企画実践

- ・イベント運営の企画立案実践
- ・子育て/地域問題解決を絡めた、新たなイベントのあり方を提案(15回/290名)

成果

- ・公募により新たな人材を発掘
- ・企画/実践スタッフ体制を確立

体験講座伝承事業:

## 正月の餅つき大会 (小学校2校/250名参加)

### 従来のイベント内容

単に餅をついて、小学生に食べさせるためのイベント

### 今回の実践内容

小学生を主体に、準備・餅つき・後片付けまでを小学生自身が行うイベントとして実施

### 成果

- ・子供を楽しませるだけのイベントから、「楽しみながら経験できる」イベントへレベルアップを図れた
- ・大人は「実施する人」から「見守る人」に役割が変わり、より「大人と子供が関われるイベント」となった。





人・地域つなぎツール・循環システム開発事業:

## 中学生・東大交流シャッターペイント



- ・中学校職業体験授業を活用し、デザイン志望者に対し、プロデザイナー指南の上、**カフェのロゴマークを制作**
- ・実際のシャッターペイントも、東大生との協業により、**中学生自身が実行**

成果

- ・デザイン制作→円卓会議でのプレゼンテーション・承認→実行・・・と、実際の仕事と同じプロセスを踏襲したことにより、子供達に**質の高い職業体験を提供**するとともに、**中学生が実務レベルで地域活動に参加できる事**が確認できた。